

首里城復元のための関係閣僚会議幹事会（第2回）

議事概要

日 時：令和元年 11 月 25 日（月）9:15～9:45

場 所：官邸 4 階大ホール

出席者：杉田内閣官房副長官、和泉内閣総理大臣補佐官、
古谷内閣官房副長官補、江島内閣官房内閣審議官、下野内閣官房内閣
審議官、宮地内閣府政策統括官、原内閣府沖縄振興局長、林崎消防庁
長官、岡本財務省政策立案総括審議官、中岡文化庁次長、太田林野庁
次長、北村国土交通省都市局長、高橋観光庁次長
謝花沖縄県副知事、島袋沖縄県政策調整監、上原沖縄県土木建設部
長、高良琉球大学名誉教授、鈴木内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念
公園事務所長

議 題：首里城の現状と 30 年前の復元事業の経緯等について

○ 議事内容

- （1） 冒頭、中岡文化庁次長より、以下の報告がなされた。
 - ・ 11 月 15 日に、ユネスコ総会において、上野文部科学副大臣が日本政府代表として一般政策演説を行い、首里城の復旧に全力で取り組むことを表明した。
 - ・ ロスラー・ユネスコ世界遺産センター長との会談で、復元できる環境にあることを前提に、今回の火災で直ちに首里城の世界遺産登録に影響はないと考えられると伝達された。
 - ・ 引き続き、ユネスコへの丁寧な相談・調整を行っていく。
- （2） 鈴木沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所長より、首里城の概要と現在の状況、当時の首里城復元事業の経緯及び基本的な考え方等について説明があった。
- （3） 謝花沖縄県副知事より、以下の発言がなされた。
 - ・ 閣僚会議の開催等政府の迅速な対応について、非常に力強く感じており、心より感謝を申し上げる。
 - ・ 前回の復元時には、首里城正殿実施設計委員会や木造部会などの各種委員会に、沖縄県関係の有識者が多く参画し、その知識と知恵を結集させ、徹底的に議論を重ねて作り上げられた。
 - ・ 沖縄県では、今回の首里城火災に対して、迅速かつ的確に今後の諸課題に対応するため、10 月 31 日に首里城火災対策等本部を設置した。

その後、首里城復旧ワーキンググループ、首里城復興戦略チームを設置し、国との協力関係の構築等を進めていくこととしている。

- ・ 県としては、首里城の復元に向けては、様々な課題があるが、関係機関との役割分担や協力の在り方なども含め、県民の皆様の声をしっかりと受け止め、国と連携して、全力で取り組んでいく考えである。
- ・ 県民の首里城への様々な思いを具現化するために、ご提案をさせていただきたいので、計画・検討の場への参画の機会を設けていただきたい。

(4) 高良琉球大学名誉教授より、以下の発言がなされた。

- ・ 今回焼失した首里城正殿は、1715年に再建された姿を目指して復元した。添付した資料は東京の尚家に遺されていた資料。この資料には図や寸法が記されており、こうした資料をもとに正確に復元した。
- ・ 首里城は中国と日本の文化が融合した建築物であり、国の委員会の下で多数のワーキングを開催して学際的な議論を行った。復元には、県内だけでなく、全国から様々な方が参画した。復元の学術的な到達水準はこれ以上変わらない。
- ・ 首里城は東アジアとの関係性で出来上がった城であり、県民のアイデンティティの継承であるとともに、日本のお城の概念を広げる国民的な文化遺産である。そうであるからこそ、国営公園として整備されたものと考えている。
- ・ 早期復元のためには、こうした前回復元時の基本的な考え方を踏襲することが不可欠である。
- ・ ただし、前回復元後に確認された資料は反映する必要がある。例えば、王座の柱は、当時楕円の柱であるとして整備したが、復元後に発見された写真により、下部は楕円だが上部は円形であることが判明している。こうした新たな資料を反映することは重要である。
- ・ 前回復元時と環境も変わっており、材料調達の状況も変わっている。こうした点を議論すべく、技術的な検討の場を設ける必要がある。

(5) 最後に、杉田内閣官房副長官より、以下の発言がなされた。

- ・ 首里城は、沖縄の皆さんの心のふるさとであり、魂そのものとも言えるきわめて重要な建造物である。
- ・ 今日伺った意見も踏まえて、国営公園事業として首里城の復元に向けて、政府として責任を持って取り組んでまいりたい。
- ・ 今後とも、沖縄県や地元の関係者・有識者の方々のご意見もしっかりと聞きながら、国と県が力を結集して進めてまいりたい。

(以上)